



青果市場出荷



洋菓子店出荷

《三宅農園のイチゴ》のブランド化を目指した地域密着型経営の展開

京都市北区上賀茂 三宅 健太さん

京都市北区上賀茂地域で、平成27年7月にイチゴの促成栽培用の施設を新設し、同年12月末から翌年5月まで地元洋菓子店や青果市場へ出荷され、洋菓子店からは、「鮮度や食味が良い。」と好評でした。本作では安定出荷のため、早期定植による11月末からの出荷、嗜好性の高い品種への統一、天敵利用による農薬使用の軽減などに取り組んでいます。今後、直売や洋菓子店等と提携した収穫体験等、立地条件を生かした経営展開を図り、地域密着型のイチゴ経営を目指していきます。

＜農業経営講座＞

経営のステップアップ! 新たな販売先を開拓!

普及センターでは「経営向上」や「販路開拓」をめざす方々を対象に、平成27年度から「農業経営講座」を開催しています。講座は全4回で、「農業ビジネスの基本」「自分の農業経営の把握」「商談会シートの書き方」等を学び、「模擬商談会」を行いました。昨年度に受講された方のその後の活躍をお伝えします。

紹介する皆さんには、京都乙訓地域農業応援隊のメンバーが経営の多角化や規模拡大等の取り組みについて応援してきました。

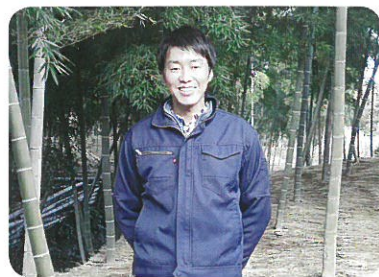
品目見直しで経営発展を目指して 安達 祐司さん (伏見区)

京都市伏見区淀地域で、トマト（施設）、ナス、ねぎ（露地）等を栽培し、スーパーでの直売等を行っています。現在、販売先に応じた多品目生産のため、生産効率の視点から品目を見直すことが必要です。今後の経営目標は、生産品目を絞って1日当たりの出荷量を増やし、併せてねぎの生産面積を拡大し、年間を通して安定供給を図っていくことです。



直売を軸に経営を発展させたい 清水 大介さん (西京区)

経営講座で作成したFCPシートは、自分の経営のPRポイント等が整理でき、販促用チラシやSNSの情報発信に活かせ、顧客が増えました。将来は直売所を拠点に経営を発展させたいと考えており、野菜の品目を増やしてセット販売をしたいです。お客さんに野菜本来の、新鮮な味を知ってもらい、信頼関係を築いていきたいです。



商談会をきっかけに経営拡大を目指す 福井 悠祐さん (南区)

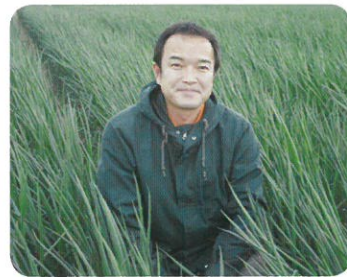
昨年3月の商談会をきっかけに、飲食業者との「セリ」の契約出荷を検討しています。

今まで「セリ」は市場出荷のみだったので、経営に不安を感じていました。直接取引に挑戦して、契約出荷に取り組むことで安定した価格の取引を目指したいです。契約により経営の拡大を目指していきたいと思っています。



品質アベレージを上げ経営向上を 岡島 理さん (伏見区)

経営講座では先生方に「自分の作った物をアピールして販売する」ということを教えていただきました。最近取り組んでいることは、窒素、リン酸、加里以外の要素がネギに与える影響を季節ごとに把握することです。目標は1年を通して品質の高いネギを出荷し、品質アベレージを上げることです。特に7～10月の品質向上に気をつけたいです。



経営の方向を探るきっかけに 出雲 与一さん (西京区)

講座受講は、妻と今後の経営について話し合う良いきっかけになりました。新たな取り組みとしてタケノコのお客さんにお米の販促チラシを送ったところ、販売先の獲得につながりました。今後は水稻の規模を拡大しつつ、東京のお客さんに売り込む新たな野菜の品目を検討していきたいと考えています。



ナスの日射制御型拍動自動かん水装置 ～ソーラーパネル利用、日射量に応じ自動でかん水・追肥～

京都乙訓地域の露地ナスは、その品質の良さにより、市場から高い評価を得ています。生産を安定させるためには、かん水・肥培管理作業が重要ですが、最盛期は、収穫・整枝・防除作業に時間がかかり、追肥作業が遅れ、ナスの樹勢や果実品質に影響する場合があります。

近年、近畿中国四国農業研究センターで「日射制御型拍動自動かん水装置」が開発されました。本システムは、ソーラーパネルを利用することで日射量に応じたかん水・追肥作業が点滴チューブを用いて自動的にできるため、かん水・追肥作業の遅れ、畝間のぬかるみ、施肥の過不足に起因する問題の解消に有効であると考えられます。

そこで、本年、向日市の生産者が京都府の「小さな経営革新チャレンジ支援事業」を活用し、本システムを露地ナス栽培で導入されました（写真1、2）。かん水・追肥作業は、拍動タンク内へネットに入れた肥効調整型肥料を投入するのみ。盛夏期のかん水や追肥作業が軽減され、収穫や整枝作業が効率的に行えるようになりました。また、肥料が削減され、安定した肥効により栽培期間を通して品質の良いナスが収穫できました。

導入経費は30万円ほどかかりますが、施肥コスト低減、管理作業の省力化、品質の安定化が可能になることにより、生産者の評価も高く、導入するメリットはあると考えられます。



写真1 日射制御型拍動自動かん水装置
パネル2枚を用い自動化
(水路→タンク、タンク→点滴チューブ)



写真2 ナスは場の様子
均一に生育し、畝間のぬかるみも改善

農薬はラベルをしっかりと見て使いましょう!

農薬を使う場合、気をつけることが多くあります。病害虫などに対して農薬を使う時はラベルをしっかりと見て使用してください。以下①～④がラベルの見方です。

- ① 農薬ごとに使用できる作物と適用病害虫が決められています。
- ② 倍率・散布量が決められており、散布する際には薬剤の量をきっちりと計りましょう。特に粒剤の施用量に間違いが多く、処理方法（全面土壌混和、播溝、植え穴、株元）で量が違いますので注意をしてください。
- ③ 使用可能な収穫前日数は、同じ農薬でも作物・対象病害虫ごとに異なります。使用日から収穫までの日数が長い場合は間違えやすいので、防除日誌をつけて確認しましょう。
- ④ 同じ薬剤でも作物によって使用回数が変わることがあります。同じ薬剤を散布する時も毎回しっかりと確認をしましょう。農薬の商品名が違っていても、有効成分は同じものがあります。使用回数は農薬の成分ごとの総使用回数で数えます。特に混合剤では注意しましょう。

ラベルの見方

①		②		③	④	
作物名	適用病害虫	希釈倍数	10a 当り 散布液量	使用時期	本剤の 使用回数	〇〇(成分) 総使用回数
トマト	アブラムシ類	1000倍	100～300L	前日	2回	3回
はくさい	ヨトウムシ	1500倍		7日	3回	4回

また、インターネットで、「農薬インデックス」、「農薬登録情報」、「農薬工業会」の言葉を検索すると農薬の詳しい情報は調べられます。

特産たけのこの魅力を、和やかに伝える

中山 睦美さん (向日市)

清々しい秋晴れの日、たけのこ畑で楽しそうな笑い声が飛び交う、その中心におられる女性農業士の中山睦美さん。この日は、向日市の特産品であるたけのこ畑の敷きわら作業。稲刈り後のわらを集め、たけのこ畑に持っていき、一面に敷き詰めます。芳醇な香りと柔らかい食感を持つたけのこ、その品質を左右する大事な管理作業の一つです。



「農業の楽しさは、作るだけでなく、色々な人と交流することよね。」 朗らかに笑う中山さんを中心に、ボランティアさんとの作業が進みます。作業の合間には皆で輪になり団らん、栽培の面白さや失敗談などを織り交ぜながら、たけのこの魅力を語られます。作業終了後の畑は、藁の黄色い絨毯、竹の深緑、青空。美しい景観に包まれ、心が和み豊かな気持ちになります。

「農業の魅力を色々な世代の方々に知ってもらうことが、地域農業を守っていくことにつながると思う。」 柔らかな笑顔の中に、凜とした思いを語っておられました。

平成28年度 京都府農山漁村伝承優秀技能認定（農の匠）の紹介



もぎなす種子保存栽培

荒木さんは、京の伝統野菜「もぎなす」の栽培を約60年にわたり続ける中で、他家受粉の回避や病害虫防除、肥培管理の工夫など高い採種技術を生かし、特徴のある形状や色沢を持つ系統を選抜し、伝統のある種子を守り続けてこられました。

荒木 稔さん
(京都市左京区)



てん茶の栽培・製造

中西さんは、伝統的なてん茶栽培技術に加え、点滴施肥システムの導入、ソルゴー障壁による土着天敵活用等の技術を積極的に取り入れ、環境にやさしい有機栽培による高品質てん茶の生産技術を確立されました。

中西 義明さん
(京都市伏見区)



新任の農業士さん よろしくお願ひします



<指導農業士>



木下 尚彦さん
(京都市南区)



小野 洋史さん
(長岡京市)

<女性農業士>



小山 寿美さん
(長岡京市)

<青年農業士>



山本 哲郎さん
(京都市伏見区)



内藤 勇貴さん
(京都市伏見区)



清水 大介さん
(京都市西京区)



退任の農業士さん ありがとうございました

<指導農業士>

石田 知史さん (京都市右京区)

<女性農業士>

齋藤なをみさん (京都市西京区)

石田 祝子さん (長岡京市)

<青年農業士>

斎藤 寿治さん (京都市西京区)

橋本健太郎さん (京都市伏見区)

西川誠司郎さん (長岡京市)

発行 京都府京都乙訓 農業改良普及センター

〒615-0846

京都市右京区西京極徳大寺団子田町15

TEL 075-315-2906

FAX 075-315-2909

<http://www.pref.kyoto.jp/kyotootokuni-f/>

平成29年2月10日発行